

1. 標高単点の復旧 2

メニュー「一括処理」に新メニュー「標高単点の復旧 2」を追加しました。

分類コード 7312 などの点 (E5) と方向 (E6) について、近くにある標高注記 (E7) を参照し、標高値を修正します。上記の「標高単点の復旧」との違いは次の 2 点です。

- ✓ 方向 (E6) も対象
- ✓ 本来の値の 10 分の 1 あるいは 100 分の 1 の制限なし

問題点(E5,E6)のリストアップ

標高値が近傍の注記の値と異なる点(E5)方向(E6)をリストアップします。

問題点(E5,E6)の Z 値変更

標高値が近傍の注記の値と異なる点(E5)方向(E6)の Z 値を変更します。

TIN による cm の推定

TIN 上での Z 値を参照し、Z 値の cm の桁を推定します。

対象：点(E5,E6)

問題の可能性のある点(E5)の分類コードを指定します。

参照：注記(E7)

標高注記の分類コードを指定します。数値のみの文字列で、かつ小数点[.]を含む文字列のみを参照します。等高線の標高値は小数点は含まないので除外するためです。

水平距離

点(E5)方向(E6)から注記(E7)の左下角までの距離を指定します。点(E5)方向(E6)からこの距離以下で、最も近い注記を探します。

標高差

点(E5)方向(E6)の Z 値と、注記の数値の差を指定します。点(E5)方向(E6)の Z 値と近くの注記の数値の差が、この値未満の場合、点(E5)の Z 値は誤っていないと判断します。

「問題点(E5,E6)のリストアップ」では点(E5)に注目し以下の処理を行います。

- ① 点(E5)方向(E6)の近くに注記(E7)を探します。注記がなければ[チェックリスト]にリストアップし、処理終了
- ② 点(E5)方向(E6)の Z 値と注記(E7)の数値の差が「標高差」以下なら、処理終了。
- ③ 点(E5)方向(E6)について[チェックリスト]にリストアップ

「問題点(E5,E6)の Z 値変更」では上記③でリストアップされた点(E5)方向(E6)に注記の数値をセットします。Z 値を変更した点(E5)方向(E6)は、[確認リスト]にリストアップします。

2. 標高単点の復旧

メニュー「一括処理」にメニュー「標高単点の復旧」も追加しました。